

2022年度第2回血液検査機器技術委員会議事録

1. 日時:2022年10月7日(金) 16時00分～17時30分
2. 場所:ZoomによるWeb会議&神戸国際会議場 5F 503号室
3. 出席予定者(敬称略)
新保、久保田、稲葉、高橋、朝比奈、常名、菅原、内藤、井上、今田、下村、林、坂井、春日、長濱、齋藤、鈴木、遠見、生田、舟久保、大泉、田中(現地)
増田、大川、近藤、久保(Zoom)
4. 欠席者(敬称略)
金子
5. 議題
 - 1) 報告事項
 - (1) 2022年度第1回血液検査機器技術委員会議事録確認
会員総会(学術委員会報告)で委員会報告を行う予定。
 - (2) 第12回血液検査機器技術セミナー
 - ① テーマ:「クロスミキシングテストの参考書」
 - ② 担当:下村委員、菅原委員
 - ③ 10月7日(金)13:00～16:00
 - ④ 神戸国際会議場第1会場(1Fメインホール)
 - ⑤ 定員200名(事前登録不要)
→146名参加いただいた。
開催形式:現地で通常通り開催および進行
 - ⑥ 内容
 1. クロスミキシングテスト実施前に押さえておくべきポイント
演者:結城智嗣(山形大学医学部附属病院 検査部)
 2. クロスミキシングテスト実施にあたり押さえておくべきポイント
演者:梶谷亮太(大阪医科薬科大学病院 中央検査部)
 3. クロスミキシングテストの結果解釈で押さえておくべきポイント
演者:徳永尚樹(社会医療法人 川島病院 検査室)
 4. クロスミキシングテストの実例を交えたコメントの書き方
演者:松田将門(福島県立医科大学保健科学部臨床検査学科)
 5. 実症例を用いたクロスミキシングテストの解説
演者 下村大樹(公益財団法人 天理よろづ相談所病院 臨床検査部)
 - ⑦ オンデマンド配信予定(2022年10月24日(月)12時～11月23日(水)17

時まで)

- ⑧ 希望者にセミナー参加証明書を受付時に配布(150枚依頼:会場参加のみ対象)。

→参加証明は当面配布を継続する予定

セミナーの内容が精度管理である場合に日臨技精度保証施設認定の申請時に提出できる可能性あり

施設によっては、参加証明の提示を求められる場合もある

参加証明の配布は現地参加者のみ

(3) モーニングセミナー2(シスメックス株式会社協賛)

- ① テーマ:「血球計数と血液凝固検査の再検について」

- ② 司会:新保委員長

- ③ 10月9日(日) 8:00~9:00

- ④ 神戸国際会議場第1会場(1Fメインホール)

- ⑤ 定員未定

- ⑥ 開催形式:現地で通常通り開催および進行

- ⑦ 内容

1. 当院における血球計数の再検について

演者 屋代いづみ(獨協医科大学病院臨床検査センター)

2. 血液凝固・線溶検査に異常があった場合の再検査や対処方法

～血液検査機器技術委員施設の例を紹介から

演者 内藤麻美(つくば i-laboratoryLLP 検査部)

→多数のアンケート回答をいただいた。

- ⑧ オンデマンド配信予定(2022年10月24日(月)12時~11月23日(水)17時まで)

2) 審議事項

(1) 第13回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ:「血球計数装置の実運用」

- ② 担 当:朝比奈委員、大川委員

- ③ 内 容:各メーカーの装置を使用している技師に発表してもらう

《演者案》

・シスメックス社:今田委員

・シーメンス社:静岡赤十字病院(朝比奈委員の施設)の方

・ベックマンコールター社:日本大学病院、杏林大学医学部附属病院、
聖マリアンナ医科大学病院から選出予定。

アボット社:現時点で具体的な演者の推薦は難しい

堀場製作所社:3 施設推薦(演者は未定→委員会名で依頼が必要)

→ユーザーは小規模施設が多い

演者は医療検査科学会の会員であることが望ましい

改めて相談することとした

日本光電社:ユーザーにお願いするのは難しい

《進行案》総時間 120 分を想定

| | メーカー発表 | ユーザー発表 | 総合討論 |
|----|--------|---------------|------|
| 案1 | なし | 20分×6施設(120分) | なし |
| 案2 | なし | 15分×6施設(90分) | 30分 |
| 案3 | 30分 | 15分×6施設(90分) | なし |
| 案4 | 30分 | 10分×6施設(60分) | 30分 |

《発表内容案》

メーカー:各血球系統の解析原理

各メーカーの推し機能(焦点を当てる機能はメーカー委員と相談)

異常判定の目安(原理による違いや注意点を含む)

ユーザー:再検基準

自動血球計数装置の結果値や各種情報が有用だった症例紹介(できれば重複しないように)

推し機能の例

*シスメックス社→WPCモード、IPF

*シーメンス社→Perox c、赤血球マトリックス

*コールター社→MDW

→ユーザー発表の部分の推し機能に関しては、装置によっては搭載されていないチャンネルなどあり、また該当する症例が少ない場合もあるなど、補刷にすることも視野に入れ、再検基準のみとしたほうがよい
基本的な原理についてもユーザー発表者に説明してもらい、その上で再検基準について話を進めてもらうほうが、流れがよいと考えられる

⇒進行案は案1 or 案2で検討を進める

(2) 第14回血液検査機器技術セミナーについて

① テーマ:「凝固測定装置の特徴と実運用」

② 担当:金子委員、井上委員

③ 内容:凝固分析装置の特徴

→装置の基本的な特徴は内容的にあった方がよい

同じ検体を違う装置で測定してみる

→期間的、倫理的な問題等考えると難しい

試薬と装置の組み合わせ、基礎的な原理・データの見方と再検方法、「凝固検査」というくくりで汎用機の試薬、DOACs のデータへの影響、FDP・DD の非特異・異常高値への対応、パニック値の運用等多くの意見があった

今回のモーニングセミナー2 のアンケートの結果を受けての流れでセミナーの内容を検討してはどうか、第 13 回の内容を凝固に置き換えを行い、第 14 回終わりで凝固の補冊を作ることを視野に入れる

(3) 第 15 回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ:「フローサイトメトリーの実際について」
- ② 担 当:稲葉委員、常名委員
- ③ 内 容:BD、コールター社、SONY 社、シスメックス社等、2021 年のシンポジウムでの内容やガイドラインも基に進める。

(4) 第 16 回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ:「品質保証(精度管理)について」
- ② 担 当:高橋委員・内藤委員
- ③ 内 容:ISO だけでなく実際にどのように行っているのかや是正の方法についての内容。

(5) 学会雑誌の補冊の発刊について

- ① 2020 年、2021 年、2023 年のセミナーで血球計数はまとまると思われ、2024 年には補冊の発刊を予定したいのでタイトルおよび担当を考える。
タイトル(仮):「血液検査に役立つ自動血球計数装置の基礎知識と再検方法および症例解析」
担当:新保委員長、井上委員、常名委員、メーカー委員(基本的な原理)、今田委員をはじめ 2023 年のセミナーの演者にも依頼する予定。
- ② 2022 年、2024 年のセミナー内容で凝固の補冊の発刊を考えたいのでタイトルおよび担当を考える。
タイトル(未定)
担当:新保委員長、下村委員、菅原委員はじめ 2022 年のセミナー演者、金子委員、井上委員はじめ 2023 年のセミナー演者にも依頼する予定。

3) その他

- ① 本日開催の血液検査機器技術セミナーについて
→案内看板がなかったので、設置されているとよかった
- ② 今後のテーマの参考にもなるので、アンケートを取った方がよいのではないかと
→QR 読み込みでアクセスできる Google Formsで行ってはどうか
今後資料の更新があるので、QRを HP に UP するのもよいのでは？
事務局に依頼し会員メーリングリストにて Google Formsの URL 配信も可能と考えられる